

CCS 開発の加速が必要

【メルボルン(オーストラリア)2016年11月15日 APPメディアネット・インターナショナル＝共同通信 JBN】
グローバル CCS インスティテュートが CCS に関する年次報告書(Global Status of CCS:2016)をリリース

世界の最高 CCS 機関は、パリ協定の気候変動目標を達成するためには CCS のペースが加速されなければならないと表明した。

11月15日、マラケシュで開催中の気候変動枠組条約第22回締約国会議(COP22)の記者会見において、ブラッド・ページ(グローバル CCS インスティテュート CEO)は Global Status of CCS: 2016 (世界の CCS の動向:2016)を発表し、摂氏2°Cを「はるかに下回る」目標設定の規模を過小評価すべきではないと述べた。

「国際エネルギー機関(IEA)の2°Cシナリオにおける今後25年間に必要な CCS の展開と比べた場合、現行の CO₂ 回収能力はあまりにも小さい。」

「2°Cシナリオ(2DS)においては、2040年にかけて年間40億トン(4000 Mtpa)近い CO₂ を回収・貯留する必要がある。その大半は非 OECD(経済協力開発機構)諸国において必要な回収・貯留である。現在、稼働・建設中のプロジェクトにおける炭素回収能力は年間4000万トン(40 Mtpa)程度にすぎない。われわれはこのギャップを埋めるために大きく前進しなければならない。」

ページ氏は、過去5年間に世界的に CCS のプロジェクトが大きく進展したと述べている。

「世界中で稼働する大規模 CCS プロジェクトは間もなく18カ所になり、米国では多数のプロジェクトが建設を完了して試運転の最終段階にある。他方、2010年初めでは稼働中の大規模 CCS 施設は10カ所を下回っていた。」

「これは政府の積極的な政策イニシアチブがこの10年で進展したことが成功の大きな要因である。」

2016年の年次報告書は、絶え間ない積極的な各国政府支援により CCS の現在の成功がもたらされ、パリ気候変動目標を達成する共有能力にあったことを明らかにしている。

ページ氏は「CCS の広範な展開は、CCS 技術に関する衡平のとれた考察や認識、そして他の低炭素技術と同様の援助条件における、「ポリシーパリティ」に基づくものでなくてはならない。」と述べた。

「つまりこれは CCS にとって、とりわけ技術とそのライフサイクル段階に適合する支援の設計と実施を意味する」

「今後は CCS の普及を促進する経済的手段として、リスクや活動の複雑さに対処するためのインセンティブ・メカニズムに焦点を当てる必要がある。」

ページ氏は、近年の CCS プロジェクトの着実な進歩と過去1年間の成果が CCS 成功の証であると述べた。

一方でその推進力は維持されなければならないと警告する。

「CCS 技術は、より幅広く採用されるか否かにかかっている。低炭素経済への移行期におけるグローバルモデルにおいて、CCS に託された重要な役割は、国家レベルの援助政策には十分には落とし込まれてはいない」

「今後の動向が極めて重要になってくる。大規模 CCS プロジェクトの数を大幅に増やし、パリ協定における気候変動の採択目標に貢献しなければならない。」

「ただし危険はある。もし、正しい政策、法・規制上の前提条件が今後5年のうちに導入されなければ、パリ協定は単

なる夢物語で終わってしまう。」

ニコラス・スターン卿(グローバル CCS インスティテュート国際顧問、ロンドン大学経済政治学院グランサム気候変動環境研究所所長)は、CCS の展開ペースは遅きに失するとして、世界各国がもっと大きな注意を払わなければならないと指摘した。

「世界が地球温暖化を 2°C以下に抑えるというパリ協定の採択目標を達成するつもりなら、われわれは CCS のバイオエネルギー利用という負の排出(negative emissions)が必要になるだろう。」

「また、CCS は多くの産業活動から排出される CO₂を削減する唯一の選択肢に思える。われわれにはこの技術を軽視する余裕はなく、その進展を加速するために、よりよい政策とより多くの投資が必要である。」

▽2016 年の成果

- Tomakomai CCS Demonstration Project (CO₂ capture capacity of approximately 100,000 tonnes per annum) – **Japan (Operating)**
- Toshiba Corporation and Mizuho Information and Research Institute retrofit of the Mikawa coal-fired power plant (CO₂ capture capacity of approximately 150,000 tonnes per annum) – **Japan (In detailed design)**
- Abu Dhabi CCS Project (Phase 1), Emirates Steel Industries CCS Project (CO₂ capture capacity of approximately 0.8 Mtpa) – **United Arab Emirates (Operating)**
- Kemper County Energy Facility (CO₂ capture capacity of approximately 3 Mtpa) - **United States (Operations very close)**
- Petra Nova Carbon Capture Project (CO₂ capture capacity of approximately 1.4 Mtpa - **United States (Operations very close)**
- Illinois Industrial Carbon Capture and Storage Project (CO₂ capture capacity of approximately 1 Mtpa) - **United States (Construction completed)**
- United States Department of Energy Office of Fossil Energy, Clean Coal Research, Development, and Demonstration Programs (injection of more than 13 million tonnes of CO₂) - **United States (Operating)**
- Air Products Steam Methane Reformer Enhanced Oil Recovery (EOR) Project (three million tonnes of CO₂ captured and used in CO₂-EOR systems) – **United States (Operating)**
- Sleipner CO₂ Storage Project: 20 years of Operation (over 16 million tonnes of CO₂ stored) – **Norway (Operating)**
- Quest Project (over one million tonnes of CO₂ stored) – **Canada (Operating)**
- Boundary Dam Carbon Capture and Storage Project (over one million tonnes of CO₂ captured and used mainly in CO₂-EOR systems) – **Canada (Operating)**
- Petrobras Santos Basin Pre-Salt Oil Field CCS Project (over three million tonnes of CO₂ injected into CO₂-EOR systems) – **Brazil (Operating)**
- Jilin Oil Field EOR Demonstration Project (over one million tonnes of CO₂ injected into CO₂-EOR systems) – **China (Operating)**

- Yanchang Integrated Carbon Capture and Storage Demonstration Project (CO₂ capture capacity of 0.4-0.5 Mtpa) – **China (Final investment decision is near)**

▽報道関係問い合わせ先

Antonios Papaspiropoulos, +61 401 944 478 Antonios.Papaspiropoulos@globalccsinstitute.com

Jake Lynn, +1 202 895 2793 Jake.Lynn@globalccsinstitute.com

Jelena Susa, +61 413 269 410 Jelena.Susa@globalccsinstitute.com

Global CCS Institute について:

グローバル CCS インスティテュート (Global CCS Institute) は、国際的な会員制組織であり、気候変動対応とエネルギー安全保障の提供に不可欠な技術である CCS の開発・実証・普及の推進をミッションとしている。

インスティテュートは、メンバーと共に、そしてメンバーを代表して、この重要技術が温室効果ガス排出削減においてその役目を果たすことができるよう、専門知識の共有、能力育成、助言と支援の提供により CCS の採用をできるだけ迅速かつコスト効果的に推進している。

インスティテュートは、低炭素未来に不可欠な要素として CCS にコミットする政府、国際的企業、中小企業、研究機関、非政府組織をはじめとする世界中の多岐にわたるメンバーで構成されている。インスティテュートは豪州メルボルンに本部を置き、ワシントン DC、ブリュッセル、北京、東京に地域オフィスを設けています。さらに詳しい情報については www.globalccsinstitute.com を参照ください。